

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500035		
法人名	ライフサポート安心企業組合		
事業所名	グループホーム みたけ		
所在地	岡山県笠岡市西大島3253番地		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390500035&SCD=320&PCD=33
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○毎日散歩へ行き、しっかり歩いていただいている。 ○毎日午前午後1回ずつ映像を使っの体操やストレッチ、筋カトレーニングを取り入れ筋力向上、バランス機能の改善に力を入れている。
 ○ホームで、ヨーグルトとブルーベリージャムを作っており、毎日朝昼の2回召し上がってもらっている。
 ○地域の様々なイベントに参加している。
 ○学生ボランティアを受け入れている。
 ○生活リハビリ、家事療法として主に食事作りと洗濯はお客様にさせていただいている。
 ○ほぼ毎月なにかしらの行事を行っている。
 ○しっかりと水分摂取していただいている。(一日平均1300cc~1500cc)
 ○自己評価は職員7名で評価したため、同じ項目でも評価内容に大きな差がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所名の「みたけ」には、「みんなで、たのしく、げんきに」という思いが込められている。散歩や運動を続けることが、筋力の低下を抑えられるという経験により、日ごろから積極的に取り入れている。また、買い物などの外出、食事の準備や後片付けなどで、残存能力の維持に力を入れている。
 アットホームな雰囲気も印象的である。普段から利用者の様子を写真に撮り、請求書に添えたり、アルバムにしている。3ヶ月に1度は、職員が手紙で状況を伝えるなど、事業所での様子がよく分ると家族から好評である。代表者と管理者の地元でもあり、地域とのつながりや交流も多い。月数回は地域との関わりを持った外出ができるよう地域の行事を調べて、実行している。
 「今、最善と思うことをする」方針で、ケアの方法や介護用品の選択、記録の書式などの改善を続けたり、職員にはできるだけ残業にならないよう勤務体制に配慮するなど、介護サービス向上に向けた意識が高い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・定期的に行われているミーティングで話し合い再確認している ・事務所内いつでも確認できるような理念を掲げている ・理念を共有し日々支援を行っている	理念は、「その人らしくを支援する」「人格を尊重する」など6項目で構成される。管理者は、月ごとに1項目を目標として掲げ、職員会議を通じて意識付けをしている。しかし、内容は理解しているが、それが理念だと気付いていない職員も見受けられた。	開所からして5年、状況変化にあった新しい理念を検討中と聞いた。職員の意見や思いも取り入れながら、分かりやすく、同じ意識を共有できる道しるべになる理念を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	・地域のイベントを調べ積極的に参加している ・近所のスーパーへ2日に1度買物に行っており、そこで知り合いの方に会うこともある ・小学校のオープンスクール、学芸会などに参加している ・日常的に散歩に出かけ地域の人たちと挨拶や世間話をしている ・地域の中学生のボランティアを受け入れている	管理者の地元でもあり、町内会など近隣とつながりが強く、交流が盛んである。市の広報やケーブルテレビで、イベント情報を積極的に調べ、行事計画に取り入れている。地域交流室を利用して、定期的に演芸ボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・その都度対応できている ・少しずつ行かしていると思う ・少しずつ理解されているように思える(散歩時) ・学生ボランティアや実習生を受け入れている ・活かし切れていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・意見、要望等を職員へ伝え、話し合いの場を設け反映できている ・2ヶ月に1回開催しているが話す内容があまりない (21・目標計画達成)	民生委員、学校長、有識者などが参加している。会議では事業所から計画や実施の状況を報告し、参加者から意見を聞いている。家族にも案内しているが、平日開催のため参加が少ない。会議後に参加者と食事会をし、交流を深める工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・連携できていると思う ・社協等連絡を密にとれていると思う ・何かわからないこと等あった時に連絡をとっている	法令に則った運営ができるよう、市の担当者には制度に関して不明なことがあれば相談している。例えば、身体拘束について記録に残す様式や対応方法など助言をもらい、運営に活かしている。運営推進会議にも出席してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日中は玄関には鍵をかけず自由な暮らしを支援している ・職員会議で身体拘束の勉強会を行い理解を深めた ・職員会議で話し合い緊急止むおえない場合のみご家族の了承を得、同意書に署名を得て行う ・気持ちを押しやつけないよう良く話を聞いて理解を頂くよう努めている ・今現在拘束はしていない ・ひと部屋居室の窓に補助錠をしている	日中は玄関に施錠せず、職員は利用者の居る場所を把握するよう、常に気を配って見守っている。言葉による拘束もないように、多くの職員が注意している。ただし、利用者の安全を考えて、やむを得ないと判断した場合、家族の理解と同意を得て、期間を定めて夜間に居室の施錠をしたことがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・GH内で勉強会を行い実践できている ・会議等に虐待防止に向けた理解浸透や遵守にむけた取り組みを行っている ・お互いに注意し見過ごされないように努めている ・虐待について話をしたり講演会があれば参加している ・研修に行った職員の発表を聞いた		

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・平成23年度中にほぼ全職員が市の成年後見制度の研修会に参加する予定。1月現在二人を残している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・理事長か管理者が契約時には契約書と重要事項説明書を説明し納得された場合のみ署名、捺印をいただいている ・十分に説明し理解して頂いていると思う ・補足があれば随時説明している ・主に管理者が行っているのご家族に尋ねられても分からない		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時や電話をかけた時を利用して話を聞いている ・外部評価時の家族アンケートの結果を会議で話し合い運営に反映させている ・ご家族には手紙を書いたり、訪問時には何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している	家族には、意見や要望を言ってもらえるよう、来訪時や電話連絡時に声をかけている。外部評価の家族アンケートは、「貴重な声」として運営に活かしている。満足度が低い項目は、職員で話し合い、改善に向けて対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員は月1回の会議において意見や提案を言っている ・会議以外で発生した意見や要望等の反映は難しい ・反映されていると思う ・運営に関する意見を言う場はないし、言えない	職員会議での意見はまだ少ないが、実現が可能な改善提案は実施に努め、困難なことは理由を明確にして説明している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・サービス残業や過重労働は見られず、身体的精神的負担が少ない。そのため腰痛が改善された ・残業した場合必ず手当てが出る ・希望休の優先で働きやすい環境である ・急な体調不良でも休みがもらえる ・向上心を持って働ける環境ではない ・休憩時間がない ・気分転換できるような時間があまりない ・やりがいがない ・求められるものが多く精神的にきつい ・急病、急用の休日確保が困難 ・日々時間に追われているためもう少しゆとりを持って働きたい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員は年1回以上研修に行っている ・平成23年度は認知紹介護実践研修修了者が1名あり ・職員が希望する研修を受講でき、金銭的な助成もある ・研修を受ける機会が増えてきた ・研修へ参加しなくても会議の際、研修受講者の発表が聞ける		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・職員3名が他グループホームに研修に行き交流する機会をつくりネットワーク作りに取り組んだ ・研修で他GHの職員と知り合い、その後お互いのGHを相互訪問した		

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居時に要望等を聞いている ・入居時は不安なことが多いのでしっかり話しかけをして関係作りに努めている ・言葉だけでなくお客様の様子、動き、態度を観察し何を要望されているのか把握するよう努め信頼関係を築いている ・ご本人の話をしっかり聞きその方にあったサービスを提供 ・プライバシーを守りながらお客様のお話に耳を傾け不安を取り除きご本人の希望に沿うようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・契約に来られた時にご家族に話を聞いている ・ご家族に入居前の生活を聞いたり、不安なことや要望を聞いている ・ご家族の面会時に近況報告などし、世間話も出来るように努めている ・ご家族の面会時職員が明るい会話を心がけ話しやすい環境作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・お客様、ご家族の要望を軸にサービス内容を決めており、お客様のその時の状態に合わせたサービスが提供できている ・その都度その時にあったサービスを提供している ・ケアマネージャーが対応し、その事柄を他の職員に伝えている ・ケアマネが対応しているのでわからない		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・同居人としてではなくみたけ全員が共に支え合う共同体として生活できるように支援している ・日々ゆったりと笑顔で暮らし料理などで支え合っている ・支援する側、される側という意識を持たずお互いが共生しながら和やかな生活ができるように努めている ・お客様のできることを共にすることで支えあっていることを認識頂いている ・一緒に生活したいと思っているがなかなか理解して頂けない		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・定期的には手紙を出しホームでの様子を伝えている ・面会時には過ごしやすい環境を整え職員も気さくにご家族と会話している ・面会時に写真のアルバムを見ていただいたり近況報告をしている ・いい関係が築けている ・誕生日や催し事へのご家族の参加		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会制限のないお客様には知人等に面会して頂いており、電話、手紙などでの連絡を取り持ち継続的な交流ができるようにしている ・面会制限のない限り面会は自由にしている ・馴染みの方の面会はあるが少ない	家族や知人の訪問が少ない場合でも、電話や年賀状で馴染みの関係が続けられるよう働きかけている。家族からの希望で、面会制限のある利用者がいるが、可能な範囲で面会や連絡が取れるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・集団レクを取り入れ孤立を防いでいる ・共同作業を行い時間の共有を図っている ・個別に話を聞いたり気の合うお客様どうして過ごされるようにしている ・お茶の時間等話をされたり、職員が間に入り話しやすいようにしている ・ホールの席などを状況に応じて移動している ・一人がいいという方には無理に参加してもらわずご本人の意思を尊重している ・就寝時以外は居間で過ごしていただいている		

グループホームみたけ

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・相談があれば支援に努めたいがプライバシーの問題が生じることもある ・退去後にホームで撮った写真をアルバムにし差し上げている ・電話してこられた際は快く対応している ・契約が終了したらそれからのことはわからない	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・職員会議で話し合いを行っている ・お客様の訴えを聞きご家族にも相談している ・常にお客様の立場に立って対応しているがお客様の意思通りに対応できていない又はできない ・日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている ・昔の生活はどんな様子かご家族に聞き、ケアに取り入れる	コーヒー好きな利用者には、お茶の時間にコーヒーを出したり、時に喫茶店へ行くなど、嗜好にも満足してもらえるよう努めている。また、囲碁やドライブなど趣味を職員と一緒にするなど、できる限り利用者の思いが満たされるように対応している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・契約時に生活歴などを聞いたり入居後も好き嫌いについて聞いている ・生活する中で昔話を話をお聞きする ・面会者に昔話を聞く ・お客様やご家族の力を借りながら継続的に行っている ・入居前に個人ファイルを作成しその方の生活を尊重するよう努めている ・なるべくその方の生活を尊重しているが全ての把握はできていない ・把握の努力に職員間で差がある	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・お客様との会話からより細かなことがわかるように努めている ・一人一人に合った方法で過ごされている ・毎朝と体調不良時などは適宜、体温と血圧と脈の測定を行っている ・お客様一人一人の生活のリズムを理解し行動や小さな動作から感じ取り個人の全体の把握に努めている ・毎月の会議で意見交換を行っている	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・会議時ケアマネが中心になり職員一同話し合いをしている ・お客様とご家族と話し合い意向を聞き、カンファレンスを行い職員全員に意見を聞き、取入れている ・ご家族の意思を大切にモニタリングを行っている	計画作成前には、まず家族に希望を聞くようにしている。利用者や家族の意向とモニタリングをもとに、カンファレンスで職員全員が意見を交換し、計画に反映させている。実績や成果から、体を動かすことに重点を置いた計画を盛り込んでいる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々変わったことがあれば記録するようにし職員間で情報交換している ・何か変わったことがあれば記録に書いたり出勤者に声をかけて共有している ・記録は職員誰もが手に届きやすい場所にあり記録内容も簡潔で見やすく記入しやすい ・介護記録に状態や変化、気づきなどを記録し職員間の情報交換している ・申し送りノート等活用できている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族とよく相談して対応している ・お客様やご家族の状態や意向に配慮しながら取り組んでいる ・食事面では好み等を取り入れその方に合った食事を提供している ・適宜その時々に応じてサービスを変更している	

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・2日に1回は近所のスーパーに買物に行っている ・地域の行事に積極的に参加している ・散髪は訪問美容を活用している ・中学生のボランティアを毎年受け入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族の意向とご本人の状態によりかかりつけ医を決定し、ご家族にも確認している ・かかりつけ医としっかりと連携しており何かあったときはすぐに直接または電話で相談している ・ご家族と協力し通院介助を行っている ・時間帯や症状によっては受診や電話対応できないことがある	近隣協力医や看護師とは24時間連絡できる体制なので、現在多くの利用者が希望してかかりつけ医としている。受診後は、家族にしっかりと現状を把握してもらうよう、丁寧な連絡に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職とすぐに連絡がとれる体制である ・変化等に気づいたことがあれば看護職に報告し医師に相談してくれたりし、適切な医療につなげている ・受診の付き添いには主に看護職が行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時にはご本人の介護情報を文書や口頭で病院関係者に伝えている ・入院中の面会時に医師や看護師に様子を尋ねている ・入院時にご家族と連絡をとりあい相談している ・GHに近い病院への入院では洗濯物を取りに行ったりしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご家族の意向を踏まえ医師と職員が連携をとり安心して納得した終末期になるよう随時意思を確認しながら取組んでいる ・ご家族とも良く話し合いをし今後の方針を確認している ・ご家族と医師との話し合いも動めている ・GHのできる範囲の支援を行う ・ご家族と管理者やケアマネがよく話し合い職員に伝えている	「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、事業所のできる最大限のケアについて利用者と家族に説明して、同意書を得ている。しかし、項目が多く、細かい所まで把握ができないことに不安を感じる家族もいる。看取りに向けて、管理者が職員に心構えのアドバイスをしたり対応方法を確認をしている。	重度化や看取りに関して、事例やQ&Aを交え、事業所のできる範囲をより具体的に分かりやすく説明し、しっかりと家族の理解が得られるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・平成22年度に消防署が行っている普通救命講習を全職員が受講しており、修了証を持っている ・会議で話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・お客様も屋外へ避難する形での避難訓練を年1回行っている(平成23年度は1月現在未実施) ・災害対策について職員会議で話し合っている	避難訓練は、できる限り多くの職員が体験できるように、昼間想定とし、利用者も一緒に行っている。そのため、夜間想定はまだできていない。通報装置の使い方が不安な職員も見受けられた。食べ物や水の備蓄については数日程度を確保している。	夜勤者1人で対応する方法を職員で意見を出し合っただけで、一に備えた夜間想定の実施を期待する。加えて、通報装置の操作方法や避難経路の鍵の管理なども確認するよう期待する。

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシーに気をつけた声かけを行っている ・人格を尊重しプライドを傷つけないように対応している ・耳の遠い方もいっしょり大きい声を出すと怒っているように思われるので笑顔に努めている ・言葉が乱れてしまい敬語で話すことが少なくなった ・プライバシーを尊重した声かけをときに忘れてしまう	アットホームな事業所にしたいという思いから、言葉遣いは敬語に限定していない。利用者の希望に合わせ、馴れ合いにならず、気取らない関係を築いている。介護は、他人が目にしないうるまで踏み込むサービス業と捉え、それを意識して、プライバシーに配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・職員がお客様に聞きながらできる限り希望にそえるように努めている ・お客様の状態に合わせてコミュニケーションをしっかりと図り希望や思いをくみとっている ・お客様が誕生日の時は希望する料理を作ったり、買物時は何か欲しい物はないか尋ねている ・自己決定できないお客様には選択肢を用意したり態度や様子を見て判断している ・職員が全て選択しないように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入浴等完全には希望にはそえてないところがあるがレクなどはお客様の決定で行っている ・意思決定できる方にはその方のペースを大事にしているが、できない方には職員の都合で対応する時もある ・入浴や食事時間など決まりもあるが一人一人のペースを大切にしそれに合わせた対応をしている ・お客様から不満の声を聞くことがあり希望を叶えるように努めている ・全てが希望通りには行われていない ・集団生活の場なので職員の都合が優先される		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・清潔な身だしなみを心がけ、その人らしさを保てるような手伝いをしている ・定期的に訪問美容師きている ・起床後目や二寝ぐせ身だしなみ、男性はひげに注意している ・トイレ誘導後に身だしなみが乱れているときがある ・汚れたら更衣しているが汚れが付着したままになっていることもある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好き嫌いのある方にはその方だけメニューを変えたり食べたいものを聞いたりしている ・一緒に買物に行ったり調理や食事の準備や片づけを行っている ・野菜切り、盛り付け、食器拭きをお願いしている ・お客様に包丁や手で調理をしていただいている ・キッチンからリビングが見やすいので誰でも調理風景が見られる	献立は、今ある食材やチラシから職員が決定する。それぞれの得意料理が生かされ、バラエティに富んでいる。朝食は利用者の起床時間に合わせて、保温や温め直して柔軟に対応している。夕食の準備時間を長めにすることで、利用者と一緒に準備や調理ができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量も個々に確認し一人一人の体調と一日の摂取量を把握している ・毎食、摂取量の記入をしている ・水分は十分摂取できるよう注意している ・硬いものは柔らかくしたり刻んだりし個人の咀嚼レベルに合わせている ・夏はゼリーにしたり冬は温かいものなど季節に応じて水分補給をしている ・盛り付けの量を個人に合わせて変えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・うがいのできる方は液体歯磨きにてうがいを、できない方にはガーゼにて、義歯の方は洗浄剤を使用といったように個々の状態に応じた口腔ケアをしている ・食後うがいをいただき夜は職員が義歯洗浄している ・毎食後口腔ケアをしているが十分ではない ・歯磨きが自立している方は時々口臭が気になる		

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を利用し時間を見計らってお客様をトイレ誘導し、トイレで排泄できるように支援しているがなかなか声かけに応じて下さらない方もおり困っている ・個々に応じ布パンツと紙パンツを使い分けている ・その方にあった生活リズムで排泄はしていただき間隔が長い時や尿意が遠い方は声かけをする	おむつや紙パンツでもトイレでの排泄を基本とし、寝たきりでも1日1度はトイレを使うようにしている。主に居室にあるトイレを使うので、「一緒に窓を閉めよう」など居室への用事を作って誘導するなど、声かけを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日排便チェックしている ・毎日朝と昼に自家製ヨーグルトを提供している ・排便が2日ない時から自家製ブルーベリー入りヨーグルトを食べていただいたり、便を柔らかくする薬を使っている ・個室のトイレの便器内をこまめにチェックし排便跡を確認している ・毎日散歩をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・GH側で入浴日を決めている ・個々にあわせて入浴法である ・異性の介助を拒否される方には同性の職員が介助している ・入浴拒否されたら時間を空けて再度声かけしている。それでも拒否されたら無理強いはいしない	できることは自分でやってもらい、残存能力の維持に努めている。乾燥する冬場には、希望により保湿系の入浴剤で乾燥や痒みが減るようにしている。感染症の利用者には、消毒や清掃を考慮し、日にちや順番を調整して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・散歩、レクリエーションをするなど日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている ・散歩、レクなどで刺激を与え声かけしてる ・寝たい時間に合わせて寝ていただいている ・定期的に布団を干したり、就寝前には空調の管理をし気持ちよく眠れるよう支援している ・居眠りをされている方が多いが夜間起きられているような方にははっきり昼間に起きて頂くようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個別ファイルに薬局が作成した服用薬の説明資料を保管し全職員が閲覧できるようにしている ・服用薬に変更がある場合は介護記録や連絡ノートに記入している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・将棋、ラジオ体操、レクリエーション、五目並べ、カルタ、テレビ視聴、最近では編み物など好きなことができるように支援している ・お客様の生活歴を活かして役割を持っていただいている ・入居前に好きな物や趣味、得意な物を聞いて提供している。中にはそれを頑なに拒否される方がいて難しいことも ・男性でも積極的に家事に参加頂いている ・地域のイベントへの参加や買物へ行かれ楽しまれている方もいる ・中高生が訪問してくださり交流がある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・花見、ピクニック、花火大会、喫茶店、絵画鑑賞、オーブンスクール、運動会、地域の行事などに積極的に参加している ・毎日散歩に出かけており戸外に出る機会が多い ・戸外へ出ようと去れるお客様には適宜対応している ・帰宅願望のあるお客様には対応できていない ・お客様全員のご希望には応えられない ・ご家族の協力が無いと難しい	天気の良い日にはほぼ毎日、職員と一緒に近所を散歩している。続けることで歩く力が落ちにくい効果が出てきた。そのため、積極的に散歩を勧めている。運動会など地域の行事や、菜の花やひまわりを見に行く計画を立てて、月に3回以上は外との関わりを持てるようにしている。	

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お客様と一緒に買い物に行っている・買物のできる方は買物に出かけられご自分で支払い等されている ・財布を持たれてないお客様は買物時にホームへの預かり金よりお支払いしている・現在財布をもたれている方は2名・買い物時に欲しい物を尋ねるがないと言われることが多い・買い物が好きだが現金をGHが管理しているため自分の好きなように使えないと不満を持たれ対応が難しい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状のやりとりをしていらっしゃるお客様がいる・電話は希望があれば常識的な時間内はいつでも発着信できる・手紙のやりとりはあまりない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ソファの近くに大きな窓があり季節感を感じられるようになってきている・毎日共用の台所、食堂、リビング、トイレ、各個室内と各個室のトイレ掃除を行い、清潔を保っている・トイレが汚れたらすぐに掃除している・やわらかい色を使用・廊下の掲示板に毎月季節の習字の作品を掲示している	家具や小物は、アイボリーを基調とした暖色系の色を多用し、落ち着いた空間を演出している。白木材の床のリビングは、柔らかさと温かみを感じられ、大きな窓からは田畑や山並みが見渡せる。リビングの入り口には職場体験の礼状や作品が並び、ほのぼのとした雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・3人がけのソファが3つあり、それぞれ距離をおいて配置されているため仲の良い方が集まったり、一人になりたい方が離れた所に座られたりできるようにしている・お客様の座りたいところに座って頂いてるが相性によってはトラブルになることも		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時になじみの物品の持込をお願いしている ・居室内の壁等にご家族、ご親戚の写真やご自身、ご家族、職員が作った作品などを展示している ・一日の大半を個室で過ごす方は個人の者が多いがそうでない方は少ない	タンスやテレビなど使い慣れた家具が持ち込まれている。入り口には利用者や職員が手書きした表札と、職員手作りの小物が飾られている。毎日の清掃でトイレや棚も清潔に保ち、心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・お客様の残存能力を見極めて物品の配置、壁面の手すりやトイレのはね上げ手すりの設置、介護ベッドのレンタル等を行っている・お客様の状態に合わせてベッドの配置や手すりの設置を行っている・トイレの手すり、家具の配置などに気をつけて転倒防止に努めている ・個室にはトイレがあり、基本的に個室のトイレを使って頂く・床になるべく物を置かず障害物がないようにしている		